

# 11 歯科口腔外科

連絡先:075-751-3330(病棟)  
075-751-3729(外来)

## ■診療科の特徴



歯科口腔外科長  
別所 和久

摂食、咀嚼、嚥下、構音、会話に代表される口腔機能は医学的ならびに社会的生命活動に必須の機能です。様々な疾患によりこれらは障害を受けることとなります。本院では特定機能病院の歯科口腔外科として、重度の障害を呈する疾患、即ち口腔腫瘍、顎変形症、顎関節症、歯槽堤萎縮症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症などに対して高次で高度な医療を提供しています。

## ■代表的診療対象疾患

顎変形症(下顎前突症・下顎非対称・小下顎症、他)、口腔腫瘍(白板症、他)、顎顔面骨骨折、顎堤萎縮症(インプラントによる再建)、顎関節症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症など。

## ■診療体制と実績

### 1) 外来診療体制と実績

平成22年度の新患は2,962名であり、患者紹介率は約52.4%であった(表1-1)。一般歯科口腔外科診療に加えて、専門外来として組織再生インプラント外来、口腔腫瘍外来、顎関節外来、顎矯正外来、顎顔面骨折外来、睡眠呼吸障害外来がある(表1-2)。平成18年度より口腔心身症などの治療を行う口腔難治性疾患外来、口蓋裂児に対する口蓋床(Hotz床)装着と口腔管理を行う唇顎口蓋裂補綴外来を新設し、平成20年度より患者の審美的な改善に対する要求の高まりから審美歯科外来を新設した。代表的対象疾患別の新患数では智歯周囲炎が639名と多く、顎関節症、口腔腫瘍、顎変形症、舌痛症、睡眠時無呼吸症候群、顎顔面骨骨折、と続いている(表1-3)。顎顔面の腫瘍切除後、外傷あるいは先天性の欠損に対して、インプラントを応用したエピテーゼの作製を行っており、平成18年12月に先進医療として承認された。デイスージャリー部門では積極的に日帰り手術を行っており(一部は短期入院)、昨年は971件の手術を担当した(表1-4)。

### ●表1-1 外来診療統計(人)

新患総数	2,962
受診総数	24,612
新患率	12.0%
患者紹介率	52.4%

### ●表1-2 専門外来の診療統計(人)

組織再生インプラント	690
顎関節	270
口腔難治性疾患	217
口腔腫瘍	125
顎矯正	96
睡眠呼吸障害	96
唇顎口蓋裂補綴	41
審美歯科	33

### ●表1-3 代表疾患別の外来診療統計(人)

智歯周囲炎	639
顎関節症	368
口腔腫瘍	185
顎変形症	75
舌痛症	73
睡眠時無呼吸症候群	57
顎顔面骨骨折	31

### ●表1-4 日帰り手術統計(件)

抜歯、埋伏歯など	837
腫瘍切除/摘出術	41
インプラント関連手術	40
嚢胞摘出/歯根尖切除術	36
顎堤形成術	4
顎骨骨折関連手術	4
その他	9
計	971

### 2) 入院診療体制と実績

当診療科は20床の病床を有し、昨年度は385例の入院加療を行い、198件の中央手術を行った(表2)。このうち主要な手術件数では顎変形症46例、顎骨嚢胞38例、口腔腫瘍32例、その他と続いている(表3)。

### ●表2 入院統計

年間入院症例	385(例)
年間延べ入院患者数	6,668(例)
年間手術件数	198(件)
平均在院日数	16.04(日)

### ●表3 主要疾患年間入院手術件数

顎変形症	46(件)
顎骨嚢胞	38
口腔腫瘍	32
顎関節疾患	14
顎骨骨折	8

■診療内容の特徴と治療実績

1) 口腔腫瘍に対する治療(表4)

口腔腫瘍の専門外来での年間受診数は125例であった。平成22年4月～23年3月に入院治療を行った口腔腫瘍の手術件数は32件で、内訳を表4に示す。良性腫瘍では骨腫が5例と多く、線維腫4例、多形性腺腫が3例にみられた。悪性腫瘍では、舌癌、上顎歯肉癌、口底癌が2例で頬粘膜癌、下顎歯肉癌が各1例であった。

●表4 入院で治療を行った口腔腫瘍  
良性腫瘍(計24例)

骨腫	5例
線維腫	4例
多形性腺腫	3例
エナメル上皮腫	2例
骨性異形成症	2例
角化嚢胞性歯原性腫瘍	1例
その他	7例

悪性腫瘍(計8例)

舌癌	2例
上顎歯肉癌	2例
口底癌	2例
頬粘膜癌	1例
下顎歯肉癌	1例

2) 顎変形症に対する顎矯正外科(表5)

平成22年度の手術症例は46例で、手術件数の中で多数を占めている。対象では下顎前突症が多いが、非対称症例の割合も増加しており、下顎と上顎を同時に行う上下顎移動術も増加している。また、従来では骨移植を要したり、骨の移動に限界があった難治例に対して骨延長装置を用い、骨延長法も開始している。表5に過去33年間(昭和53年度～平成22年度)の顎変形症に対する顎矯正外科の施行実績とその術式別内訳を示す。

●表5 顎矯正外科手術数(件)(昭和53年度～平成22年度)

下顎枝矢状分割法	894
前歯部歯槽骨切り術	390
オトガイ形成術	213
Le Fort I型骨切り術	137
下顎枝垂直骨切り術	117
骨延長法	19
その他	73
計	1,843

3) 顎関節症に対する保存的/外科的治療

平成22年度も368名の顎関節症の新患が当科を受診しており、これらのうち多くは保存的に治療されている。一方、外科的治療の主体は関節鏡手術と関節円板切除術で、このうち関節鏡手術の10年成績の奏効率は88.6%と良好な成績を示している。平成20年の日本顎関節学会で、顎関節症関連疾患として「咀嚼筋腱、腱膜過形成症」が新しい概念の疾患としてとりあげられた。今

後、同疾患の手術が増加すると考えられる。

4) 高度の歯槽堤萎縮症に対するインプラント治療

平成22年度のインプラント外来の受診患者数は690名、日帰り手術件数は40件であった。重度の歯槽堤萎縮患者に対して、脛骨骨髓移植による低侵襲の骨再生治療を開始している。また、多種類のインプラントシステムを導入し、病診連携を積極的に推進している。

5) 着色歯に対するホワイトニング

平成20年1月より審美歯科の専門外来を新設した。すべての症例においてホームブリーチングによるホワイトニングを施行した。治療開始後約2週間で全例において色調の改善を認め、患者の満足が得られている。

■高度医療の取り組み・研究実績

平成22年度の通常の義歯による咀嚼機能回復の困難な高度の歯槽堤萎縮症に対するインプラント治療。

●インプラント義歯

基本施術料	1件
支持連結装置	0件
上部構造材料	0件
合計	1件

平成22年度の腫瘍手術などにより顔面領域に生じた実質欠損に対する顎顔面補綴治療。

●顎顔面補綴

1級	1件
2級	2件
合計	3件

■臨床試験の実績

平成19年10月から放射線治療後の口腔乾燥症状を有する口腔癌患者10名を対象にピロカルピン塩酸塩を投与し調査臨床試験を行っている。平成20年4月より顎関節炎における組織像とMR画像の関係に関する研究。顎関節症及び咀嚼筋腱・腱膜過形成症と咀嚼筋活動異常に関する研究。平成20年度11月より経口ビスフォスフォネート製剤と骨代謝マーカーに関する研究や平成22年度2月より顎骨壊死の抜歯後発症リスクに関するコホート研究や顎骨移動術と閉塞性睡眠時無呼吸障害に関する研究を行っている。平成23年5月より骨粗鬆症患者における顎骨髄炎の併存割合に関する研究や歯周病とリウマチ疾患に関する臨床研究を行う予定である。再生医療に関連して、ヒト滑膜由来幹細胞やヒト歯根膜、歯胚由来幹細胞に関する研究やヒト疾患特異的iPS細胞に関する研究を行っている。また、ながはま0次コホート事業に参加し全身疾患と口腔疾患に関する研究を行っている。

■地域医療に対する貢献

歯科医師会、医師会関連の教育的講演会 11件